

高千穂神社：鉄製狛犬、鎮石

狛犬は、神社や仏教寺院を守るペアでみられる獅子や犬の像です。14世紀に最初に屋外に置かれ、石で作られ始めました。口を開けて「阿」を発する獅子のようなものと、口を閉じて「吽」を発しているのは犬のように見えます。「阿吽」の種子（しゅうじ、サンスクリット）は、仏教、道教、チベット仏教、およびその他のアジアの知恵の伝統で信じられている、宇宙の起源と境界を表す言葉です。これらのこまいぬは木や石ではなく鉄で作られていることがユニークで、その質と文化的価値から1971年に重要文化財に指定されました。日本の将軍、源頼朝（1147-1199）によって奉納された。源と神社との関係には、12世紀に行われた寛大な行為である畠山重忠による秩父杉の植え付けの役割も含まれます。当時、これらの鉄製のこまいぬは神社の入り口の両側にありましたが、今では神社に通じる階段のふもとに座って、あえて近づきそうな悪霊を追い払っています。

神社境内で見られるもう一つの神聖な要素は、鎮石として知られる基礎石です。無地の木製格子に囲まれたこの場所と石自体は、恐怖や静けさから解放されるための祈りを促す霊的なエネルギーを放つパワースポットであると言われています。